

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100311		
法人名	株式会社 九州ケアサービス		
事業所名	グループホーム田野あやか園		
所在地	宮崎市田野町乙10125番地9		
自己評価作成日	平成26年10月24日	評価結果市町村受理日	平成26年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokenaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihonstrus&ijvovov0d=4590100311-00&Pref0d=45&Version0d=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田野町の自然の多い環境の中で、「ゆっくり、のんびり、一緒に楽しく」を考え、利用される方たちが一緒にゆっくりとした時間が過ごせるように、田野町の自然豊かな環境を活かした介護をしています。
また、利用者のかかりつけ医と共に連携を図る為に、報告・連絡・相談をし、医療面の不安を軽減して、あやか園での生活が楽しいものになるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり、のんびり、一緒に楽しく」と掲げた理念の下、管理者を中心に、利用者が自然の中で伸び伸びとゆっくり楽しく過ごす生活を全職員で支援している。職員の質向上のため、外部研修に参加を促し、内部研修では同会社その他施設の有資格者を講師に招いたりして、積極的に取り組んでいる。また、職員の資格取得についても積極的に支援している。地域交流に取り組み、公園の草取りや掃除など、地域の活動や地域の祭りに利用者と共に参加し、また、避難訓練の際も近所に一軒ずつ参加を依頼するなど、積極的な取組をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一緒に楽しく(愉しく)生活できるように実践しているが、新しい理念の見直しは行っていない。	管理者は全職員に対し、理念の意識付けのため、研修等を実施し、理念の共有に努め、実践につなげている。また、現状にあった理念になるよう職員と話し合う機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して、地域の行事等への参加等の交流をしているが、昨年度とあまり変化(更に交流を深める等)には至らなかったと思われる。	自治会に加入し、地域の行事や活動に参加し、挨拶を交わしたり会話を楽しむなど、ご近所さんとして交流を深めている。ホームの行事や消防訓練への参加を地域住民へ積極的に働きかけ、参加を得る効果が出ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流はある程度出来ているが、事業所の特性を生かす(介護教室等)の実践には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行って、状況の報告や相談、意見等を聴ける場を設けている。	定期的開催し、ホームの状況や行事の報告をしている。参加メンバーからの意見や質問等が少なく、双方向的な意見交換を行うまでには至っていない。	運営推進会議は、地域や参加者の理解や支援を得るための貴重な機会であり、双方向的な会議になるよう、参加メンバーや議題等をさらに検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が中心となり、宮崎市役所介護保険課計画指導係担当者や総合支所福祉課職員に報告・連絡・相談等を行っている。	管理者は、日頃から市や支所の担当窓口に出向き、また、市主催の研修に参加し、中学校の体験学習を受け入れるなど、協力関係を築くよう積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないように、園内の研修会でも身体拘束についての勉強会を実施し、職員の意識向上に努める事が出来ている。	外部研修やホーム内研修を行い、全職員が身体拘束をしないケアを実践できるよう努めている。職員同士で互いのケアを振り返り、利用者が抑圧感を感じない暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修会時に(身体拘束)併せて、同防止法に関する勉強会を行う事で、学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リーフレットなどを置いているが、まだ関心が薄い状態であり、権利擁護等については研修会等の開催・参加等が必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や加算、利用料変更等の際は、利用者及びご家族に説明をその都度行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回は家族会を開催するようにしており、また、普段から定期的な電話連絡や手紙・メール等を使い、運営推進会議の内容を伝えるなど行っている。	家族の交流会を計画し、家族同士が話し合える場を作っている。請求書送付に手書きの手紙を入れ、来訪時に声かけし、遠方の家族にメールで近況を伝え、何でも言ってもらえる関係作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの時間を作って、職員間の意見交換だけでなく、具体的な経営状況等、収支報告書を公開し、出来るだけ風通しを良くするようにしている。	ミーティングで意見や提案を聞き、支援に反映している。管理者は、一緒に利用者の支援にあたっており、運営者は毎日来訪し、ホームや職員の状況を把握しており、日頃から意見や提案が言いやすい雰囲気が出てきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	原則、年1回の昇給、あるいは資格や研修修了等を行った者に対しての手当等支給、年次有給休暇取得を進めるなど行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修会への参加を基本に、法人グループ内主催の勉強会や外部研修への参加機会を設け、介護の質を向上する取組をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田野町内での合同勉強会やグループホーム連絡協議会等、各種協議会等の行う研修会などに参加を勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要であれば、入居前に見学や体験入居などの利用が出来るようにしており、園の雰囲気などがわかるようにしてもらっており、スムーズに環境に慣れることが出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を必ず行い、家族が抱える介護面の不安や費用等への疑問等を出来るだけ丁寧に説明し、コミュニケーションを図ることで関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を行う事で、他事業所の方が適切である場合等も判断して、必要時は紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人と一緒に生活をしていくことを基本に、活動等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人からの希望があれば、電話連絡や手紙などの手段を使って、随時連絡を行っている。出来るだけ利用者本人との関係が繋がっているようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	数は決して多くないが、家族以外の友人との外出を支援等しているが、全利用者に出来ていない現状である。また、電話等でのやりとりは、出来るだけ行えるようにしている。	友人と一緒に外出し、温泉やパチンコ等を楽しむ利用者がおり、その関係が継続できるよう、声かけをして支援している。また、なじみの店で衣類を買ったり、顔なじみの人と話を楽しむ利用者もおり、支援することでその機会を多く設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でのトラブルが出来るだけ起きないように、必要であれば間に入るなどしている。利用者同士で活動時の呼びかけをしているなど、良好な関係であると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も出来るだけ連絡を取る、生活の様子を見に行くなどして、関係が途切れないように留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見や希望があれば、本人や家族・職員など話し合いを行って、出来るだけニーズの把握が出来るようにしている。	利用者にゆったり寄り添う時間を持ち、日々の会話から、本人の思いや意向をくみ取っている。それらを全職員で共有し、実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	気付きシートやアセスメントシート、及びご家族や本人からの聞き取りを行い、出来るだけ生活歴等の把握などが行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、定期的なアセスメントを行って、本人の状態を把握できるようにしている。また、日報を活用し、一目でその時の状態がわかるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での話し合いによるアセスメントの充実だけでなく、情報を共有して、介護計画に活かせるようにしている。	計画作成担当者が、個人記録を基にモニタリングを行い、本人や家族の意向を把握して、介護計画を作成(見直)している。個人の記録は、利用者の状況が記載されており、介護計画に即した記載が少ない。	介護計画を念頭に置いた気づきや状況を記録し、それを基に評価や見直しをし、また、記録、モニタリング等を検討し、介護計画に沿った支援になるよう取り組むことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には出来るだけ詳細に記録をするようにしているが、似たような記録が散見されるようになったので、再度勉強会等を通して、記録の仕方を学ぶ必要がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時点での状況により違いがある為、一概に同じではないが、対応している。困難な場合でも、どうすれば希望に沿えるかを話し合っている。		

宮崎県宮崎市田野町 グループホーム田野あやか園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域(地区内なので隣近所が近い)事もあり、回覧板等を通じた行事等の参加は少ないながらも行っている。近所づきあい(挨拶など)は必ず行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くが、訪問診療による対応が出来る協力医にかかっており、必要時に連絡・報告・相談が出来るようになっている。異常の早期発見と対応が出来るような体制が作れている。	複数のかかりつけ医が往診している。かかりつけ医にホームの状況を伝え、状況を確認するなど、関係作りができています。家族の付き添いで通院時も、できるだけ同行し、医療機関と連携ができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、あやか園に看護職はいないが、利用者のかかりつけ医の看護職と情報を共有して、不安なことなどがあれば相談をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より、病院職員との申し送りをして、生活状況の伝達や病院側からは看護計画(退院までの流れ)等が把握できるよう、関係構築を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約・重要事項説明時に、重度化した場合の対応、指針等を説明し、入居時点での終末期・重度化した場合の意向確認をしている。実際に終末期等になった場合は、再度説明・意向の確認をしている。	利用開始時に、重度化や終末期について、本人や家族に説明・意向を確認し、それを記録に残している。協力医との連携体制があり、職員もその方針を共有している。終末期に向けての職員研修を計画するなど、より良い支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	宮崎市消防局の出前講座を定期的に行うなどして、急変時の対応や事故に迅速な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災については、指針だけでなく、防災用品及び食料と飲料水の確保等を行っている。	利用者や地域住民の参加も得て、年2回避難訓練を実施している。夜間想定訓練も実施し、消防署の指導、助言を受け、避難経路の確保のためにリフォームし、備蓄を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前に比べると、利用者のプライバシーに配慮できるようになった。また、利用者が、トイレの扉を開けたまま用を足している時等も、配慮して扉を閉めるなどの基本的な事が出来るようになった。	利用者の尊厳を配慮した支援になるよう、ミーティングやミニカンファレンスで話し合い、その実践に取り組んでいる。排せつ時は、さりげない、プライバシーを損なわない声かけを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらの押し付けに終始しないように注意しながら、簡単な事から本人が選択をする、できる場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務で、決まっている生活にならないように、出来るだけ自分たちの生活ペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の化粧をしたり、定期的にヘアカラー（職員が介助しながら）をしたり、あるいは洋服を買いに外出するなど、適宜支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理等の準備にかかわる場面はないが、簡単な下ごしらえの手伝いや後片付け等には参加して、食事についての関わりをもってもらっている。	提携業者からの食材に、庭で穫れた野菜等を加え、工夫された調理法で季節を感じさせる食事になっている。ひとつのテーブルを皆で囲み、食事を楽しめるよう努めている。利用者と一緒にたこ焼きやホットケーキなどのおやつを作り、食を通じた取組もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、刻み等の食事形態を変えたり、カロリーを変更できるように、食材を提供している業者の管理栄養士と連携を取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行って、必要であれば、ブラッシング等の介助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が目立つと、オムツ(尿取りパッドやリハビリパンツ)に頼ってしまいがちな一面が見られるが、排泄チェック表を活用して、適時トイレ誘導を行うようにしている。	排せつチェック表を活用して、さりげない誘導で、トイレでの排せつや自立排せつを支援している。リハビリパンツ使用の利用者は、時間帯の把握等で一人ひとりの状況をつかみ、トイレで排せつできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は出来るだけ多くとれるようにして、便秘を起こしにくい食物の選択、オリゴ糖等がある飲み物を使うなどの工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務等の都合により、原則週3回であるが、希望により、入浴日以外に入浴が出来るように準備している	週3回の入浴日を設定しているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングや声かけを工夫し、一人ひとりにあわせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れでは21時が消灯になるが、利用者の希望により、就寝時間は選んでもらうようにしている。日中は出来るだけホールで過ごしてもらっているが、体調に応じて居室でも休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があった場合は、職員に申し送りをして、情報が共有できるようにしている。服薬については、職員と利用者と一緒に確認しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼすべての利用者に役割を持ってもらい、生活を一緒にしているという意識を持ってもらうようにしている。また、持ち込み等も基本的には自由に行ってもらっており、なじみの環境になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとの行事での外出支援やほぼ毎日園外(洗濯物干しや近距離の散歩など)は行うようにしている。一人ひとりの希望に完全に添えるものではないが、出来る範囲で行っている。	散歩は日課になっている。ドライブや個別の買い物など、利用者の希望や状況に沿い、全利用者及び個別の外出を支援している。誕生月の利用者と、職員が1対1で温泉に行く等の取組もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないがお金を持って、それを使う機会のある利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望も含めて、電話の利用などは自由にできるようにしている。電話する時間帯などには配慮して、支援をしている（不在の時間等も考慮）。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度の適切な管理や季節ごとの花や飾り等を置くことで、季節感を少しでも感じながら快適に過ごせるように支援している。	温度、採光、音量などに細かく配慮し、絵画が飾られ落ち着いた共用空間になっている。居間から続きの庭にサンデッキがあり、テーブルや椅子が置かれ、利用者が田園風景を眺めながら、庭に植えられた野菜の生育を楽しめるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	園内のホールに畳スペースがあり、また、窓際にはソファを配置。ウッドデッキにはテーブルといすを配置して、利用者・職員が集まれる環境や一人で過ごすことができるような場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた寝具・家具類等があれば、可能な限り持ち込みをしてもらい、全員ではないが、なじみの空間になるようにしている。	使い慣れた家具や仏壇、テレビなどの持ち込みを助言し、それぞれの利用者が心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全には十分配慮しているが、安全一辺倒になり、利用者の自由を制限するような事にならないよう配慮している。		